

<2016年度 国際文化学部「FIC オープンセミナー」>

満蒙開拓の歴史から受け継ぐもの

—歌集『伊那の谷びと』の小林勝人さんに聞く

法政大学国際文化学部では、留学生に日本を多面的に認識してもらうことを主目的に、2012年度から長野県南部の飯田・下伊那地方で「スタディ・ジャパン (SJ) 国内研修」を実施しています。

SJ 国内研修では、この地域のかつての外国や異民族との関係、国際化の現状と展望などが学ぶべき主要テーマの一つですが、その中には当地にとって欠かせない満蒙開拓も含まれています。

研修のなかで例年お世話になっている小林勝人さん(歌会始入選者)が昨年、歌集『伊那の谷びと』を上梓しました。飯田日中友好協会や満蒙開拓平和記念館に関わってきた経歴を反映して、満蒙開拓や中国帰国者について詠んだ歌が全編を貫いています。ほかに、伊那谷全域への関心を育むことになった中部電力社員時代の保守点検業務や、家庭での養蚕・製糸の歴史、そして過疎化や学校の統廃合が進む現状への懸念など、伊那谷にとって貴重な近代史の経験が多数散りばめられています。

小林さんの歌を媒介に、満蒙開拓や中国帰国者を考える催しをこの3月、地元南信州で開催しました(右の新聞記事参照)。今回、小林勝人さんをお招きして、法政大学でも開きます。

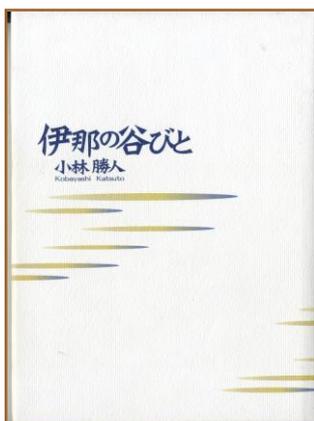
満蒙開拓という「負の歴史」を直視し、それをプラスへ変えようとする営みに学びつつ、研修地である飯田・下伊那地域の過去・現在・未来を、より掘り下げて考える場になればと思います。

●日時：2016年7月9日(土) 15:00~18:00

●会場：法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー3階 0300教室
(JR または地下鉄の「市ヶ谷駅」「飯田橋駅」からともに徒歩約10分)

●内容：小林勝人さんの語り

(SJ 国内研修担当教員の高柳俊男が聞き手を務めます)



* どなたでもご参加できます(無料)。
事前申込みは不要です。

法政大学国際文化学部
(学部事務：03-3264-9345、jkokusai@hosei.ac.jp)

<歌集から>

牛がせしその温き糞に裸足を入れ冬の満洲生き延びし孤児
ふたつの国ふたりの母を語り呉れる卒寿過ぎたる帰国婦人は
この事実いまの児たちに話さねばならぬと語り部杖つきて来る
村を分け新天地へと渡満させし母村も合併の波に呑まれる

